

2023年度（令和5年度） 関西創価小学校 学校評価

1. めざす教育像

児童一人一人の健やかな心と身体を育み、確かな学力を育成する
闊達・友情・根性をモットーとして、世界市民の基盤を育てる
恵まれた自然環境の中で豊かな感性を磨き、平和の心を育む

2. 創価学園ミッション

創造性豊かな世界市民の育成

3. 学園生育成ポリシー [関西創価学園一貫教育]

一人も残らず、「平和主義、文化主義、人間主義」のグローバルリーダーに

4. スクールポリシー

明日も行きたくなる学校づくり

1. 創立者 池田先生のもとに集い合った全ての児童が「学ぶ喜び」を感じる学校
2. 創立者 池田先生のもとに集い合った全ての児童が「成長する喜び」を感じる学校

未来につながる学校づくり

1. 使命の舞台で活躍する「児童の可能性」を育てる学校 (可能性の育成)
2. 創立精神を学び「平和を希求する心」を育てる学校 (心の育成)
3. 世界の平和に貢献する「世界市民」を育てる学校 (世界市民の育成)

5. 中期的目標

(1) 学力を身に付けるための教育内容・方法の充実

- ① 児童が落ち着いて学習に取り組み、友達と切磋琢磨する中で、基礎・基本の定着を図る。さらに、個に応じたきめ細かな指導や学力保障の取り組み、ICT機器の活用等の指導方法の工夫・改善により、児童に学ぶ楽しさを実感させ、授業や家庭学習等に主体的に取り組む意欲や態度を育成する。
- ② 「基礎的な知識・技能」、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体的に学習に取り組む態度」、いわゆる学力の三要素から構成される「確かな学力」や、本校の目指す3つの学力(「学んだ力」「学ぶ力」「学ぼうとする力」)を高めることに力点を置いていきたい。「学んだ力」とは、教科をはじめとする学習内容の基礎的・基本的な知識や技能であり、「学ぶ力」とは、問題を考えたり、学んだり、学びあっていく学習方法を含めた学び方である。そして「学ぼうとする力」は、学習内容に関心を持ち、進んで学んでいこうとする意欲や態度である。さらに、活用しよう、深めようとする力でもある。こうした学力をバランス良く育てることを目指し、教育目標や内容を見直していく。
- ③ 学習指導要領総則で示された、育成すべき資質・能力も視野に入れながら、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」という観点や「主体的・対話的で深い学び」という学びの本質的な観点も大事にしていきたい。そして、学級やグループで話し合い、発表し合うなどの協働的な学習や言語活動、各教科等における探究的な学習活動等に力を入れていく。

(2) 豊かな人間性を育む教育内容の充実

- ① 価値観の多様化とともに、社会全体にモラルの低下が見られ、社会性や規範意識、道徳心の低下などが指摘される現状を踏まえ、児童に基本的な生活習慣や規範意識を身に付けさせ、豊かな人間性や社会性を育む「心の教育」の充実を図りたい。特に、人・社会・自然などとかかわる体験活動や異学年交流、「ドリーム・プログラム」(卒業生による講演)の充実、家庭との連携を通して、心の教育の充実に向けた取り組みを推進する。
- ② いじめ、不登校等の未然防止、早期発見・早期解決に取り組み、一人一人を大切にし、児童の好ましい人間関係づくりを推進する。

(3) 「世界市民」を育成するための教育内容の充実

- ① 「世界市民」育成のために、①「世界の翼」となる英語教育の充実、② 探究型の学習を進め「世界市民」としての「豊かな国際性」を育む教育を推進する。
- ② 英語の短時間学習(英語モジュール)を含めた、英語の授業の充実を目指す。また、創価タイム(総合的な学習の時間)をはじめとした、英語以外の教科での世界市民教育の取り組みを充実させていく。

(4) 時代に即した学校教育の推進(情報教育・連携教育)

- ① Society5.0の社会に生きる児童は、主体的に対応できるための様々な力が要求される。そのため、ICT機器を学習活動に積極的に活用し、児童の情報活用能力を培うとともに、情報モラル教育を推進し、Society5.0の社会に主体的に対応できる児童の育成を図っていく。
- ② 急激に変化する社会の中で自立した一人の人間として成長していくためには、小学校から中学校へと移行していく段階で豊かな学びと育ちを保障していくことが重要である。そこで、児童の発達を軸に、小学校と中学校が児童の実態や前後のつながりを視野に入れた一貫性のある連携教育(小・中のブリッジプログラム)の充実に努めたい。

(5) 規律正しい、安全で健康的な学校生活

- ① 遠距離通学者が多い本校の場合、登下校時をはじめとする児童の生活における安全確保は重要な課題である。また、通学時のルールへの順守やマナーの向上などは、社会生活を営む上で、是非とも身につけさせたい習慣でもある。ルールへの徹底とともに心を育て、思いやりのあるマナーの向上を図る。
- ② 児童の心身の健康を保持・増進していくために、リズムある生活習慣の定着を図るとともに、健康を大切にする意欲や態度を育てたい。また、学校給食では、安全・安心を最優先に衛生管理の徹底に努め、栄養教諭と連携して食に関する指導の充実を図り、望ましい食習慣の確立に取り組んでいく。

(6) 教員の資質・能力の向上と研修の充実

- ① 創価教育の目指す教育のあり方や、学校が直面する様々な教育課題の解決のため、教員の資質・能力の向上のための各種研修の充実を図る。
- ② 授業力向上のため、校外研修への参加や、意図的・計画的な校内の授業研修を継続的に行っていく。

(7) 入試広報、児童募集の充実

- ① 少子化が加速する中、本校の目指す教育として掲げている「可能性の育成」、「心の育成」、「世界市民の育成」を柱にした教育活動をより積極的に伝えていく。そのために、教育の具体的な実践映像を効果的に使いたい。また、ホームページを活用することによって教育革新のイメージをアピールしていく。
- ② 学校見学会などの募集行事では、より本校の教育に関する理解を深めていただく機会として、体験授業・体

験給食などを実施し、募集に結びつけていきたい。

- ③ 募集要項を受験生や保護者の利便性の拡大を目指し、WEB上に掲載。さらに、WEBを使用しての出願(WEB出願)を活用していく。

6. 本年度の重点目標と具体的方策

〔I〕「確かな学力」の定着と伸長を図るための教育内容の充実

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 授業力の向上</p> <p>1. 研究授業、全員による公開授業の実施</p> <p>2. 児童や保護者による授業アンケートの実施と活用</p> <p>3. 授業力向上WEEKを設けて、互いの授業を参観</p> <p>4. 各教科で授業研修を推進</p> <p>5. 学習規律の定着</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が研究授業や公開授業を部会テーマ、個人テーマに基づいて計画的に行う ・授業アンケートの内容を見直し、授業力向上のための保護者・児童アンケートを実施する ・授業力向上WEEKを設けることによって、互いの授業を参観できる機会を作る ・各教科部会で授業研修を推進する ・研究部が中心になり学習規律を定着させるための取り組みを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいて研究授業や授業研究会を実施し、全教員が公開する授業を行う ・授業アンケートにおいて児童、保護者の80%以上が授業への満足度を示している ・授業力向上WEEKを設けている ・各教科部会で授業研修を推進している ・学習規律が定着してきている 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・算数の研究授業並びに研究協議会を実施した ・授業力向上WEEKを実施した ・児童による授業アンケートを実施した ・学習者による授業者の評価では、肯定的な回答が全項目で85%以上であった 特に、「授業は分かりやすい」「工夫して授業してくれている」「先生の指示や質問はわかりやすい」「授業で新しく分かったことやできるようになったことがある」の項目では、93%を超え、とりわけ高い満足度を示していた ・学習者の自己評価では、どの項目も肯定的な回答が多かったが、特に、「友達の見解や先生の説明をしっかりと聞くことができた」「この教科で力がついてきていると思う」の項目で肯定的回答が94%を超えており、自ら進んで授業に取り組み、力を高めていこうという姿勢で取り組んでいることがわかった ・学習規律の定着については、まだ課題が多い

<p>(2) 家庭学習や読書習慣の定着</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「家庭学習の手引き」に示された内容をもとに家庭学習の時間を確保し、習慣化を図る 2. チャレンジ図書(学年別課題図書)を設定し、読了を推進 3. ノーベルタイム、ノーベルトレイン(車内読書)を推進し、読書習慣の定着を図る 6. 読みきかせを行い、読書を通して心を育成する 7. 読書活動優秀実践校に選ばれたことをふまえ、更に、児童が良書に親しめるよう取り組んでいく 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」に示された時間や内容をもとに、保護者と協力して家庭での学習習慣を身につけさせる ・WEBの学習教材を有効に活用させる。 ・チャレンジ図書(学年別課題図書)の読了、ノーベルトレイン(車内読書)、スキマ読書、ワンブック運動などを推進する ・「ピノキオおはなし会」を実施する ・読み聞かせを積極的に行い読書に親しませる ・各行事において読書の推進に取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」に示された学年の学習時間を学年の80%の児童が達成している ・WEBの学習教材を活用させている。 ・90%以上の児童が、チャレンジ図書(学年別課題図書)を読了している ・「ピノキオおはなし会」を実施している ・図書の時間や学級の時間を活用して、読み聞かせを行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童による家庭学習アンケートを実施した ・家庭学習の目標時間に対して、達成者は51.3%だった ・2年生と6年生の家庭学習目標時間達成者率は、昨年と同様に高かった ・学習時間が「ほとんどない」「10分ぐらい」の児童は、家庭での読書時間は短く、メディア時間が「120分を超える」など、時間が長い傾向が見られた ・各学級・教科で読書活動や、読書教育を工夫して実施した <ol style="list-style-type: none"> ①ワンブック運動 ②スキマ読書の推進 ③ノーベルタイム(朝読書)の実践 ④ノーベルトレインの推進 ⑤読書ノート配布 ⑥名文暗唱の取り組み ・幼小連携のために、小学校入学前に「読み聞かせリスト」と「読み聞かせ記録ノート」を配布 ・チャレンジ図書読了者は全校の85%であった ・図書館の一年間の貸し出し冊数は、26859冊であった(一人当たり平均47冊) ・ピノキオおはなし会を1学期3年生、2学期1年生が実施した ・担任による読み聞かせを実施した
---	---	--	--

<p>(2) 成長保障と学力保障による学力の定着</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学年、学級経営案をもとにした成長保障と学力保障の取り組みを推進 2. 学力調査を分析し、課題を明確にする 3. 学力に課題のある児童をサポートする 4. 高学年はスペシャルスタディーと銘打ち放課後の補習を行う 5. 漢字検定受検の取り組みを通して基礎学力を養う 6. 児童の主体性を引き出し、学力の伸長を図るための授業を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・当該学年の学力の確実な定着に努めるとともに、学力に課題のある児童に、WEBの学習教材を有効に活用するなどして、学力保障の取り組みを行う ・高学年における放課後の補習を行う ・教科別の部会において、授業改善の取り組みを検討する ・漢字検定の受検に向けて、児童が主体的に挑戦できるようにする ・児童の主体性を引き出すための授業の工夫を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力に課題のある児童に対して、担当の教員が補習を行っている [学力調査で課題が認められた児童が対象] ・教科部会を設け、児童の課題を明確にし、授業改善に向けて検討している ・漢字検定で90%以上の児童が合格できる ・児童の主体性を引き出すための授業実践を公開授業、研究授業を実施して進めている 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開きと研究のまとめの実施時に、学級経営案の取り組みを検討し推進した ・標準学力調査や単元毎のテストの状況から課題のみられる児童を対象に、担任、学年主任、担当教員が学習支援を行い、基礎力の定着を図った (学習内容は、児童の状況に合わせて行った) 3年生…毎昼休み 4年生…木曜日6時間目 5年生…月・金曜日放課後 6年生…月・水曜日放課後 ・教科部会で授業の改善点を確認したり、教育アドバイザーからの助言を受けたりした ・漢字検定には、3年生以上が受検し、一人一人の実力に合わせて個別指導を行った。今年度は、97.8%の児童が合格することができた ・児童の主体性を引き出す授業を実践するために、教育アドバイザーに授業を参観していただき、助言やアドバイスを受けた
---	--	--	---

〔Ⅱ〕「豊かな人間性」を育むための教育の推進

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 道徳教育の充実</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心を育む道徳授業を目指しての授業実践 2. 道徳の公開授業を実施し、授業研究会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の道徳カリキュラムと道徳全体計画に基づき、計画的に授業を進めるとともに、児童の心を育む道徳の授業を実践する ・道徳部会が中心になり、授業研究会を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の公開授業を行い、道徳の授業力を高めている ・道徳の授業研究会を実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳部会メンバー中心に互いの授業を公開した ・2月にロールプレイを取り入れた授業を実施し、道徳教育のあり方を検討した

<p>(2) 児童セーフティネットの推進</p> <p>1. 児童が生き生きと学校生活を送るためにケースカンファレンスを開催し、いじめ問題や課題のある児童への対応や協議を重ねる</p> <p>2. 児童セーフティネット研修の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童に各学期、「学校生活アンケート」を実施する 不登校やASD, ADHDなど、課題を抱える児童のケースカンファレンスやいじめに関する研修会を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期に1回、アンケートを実施する 課題を抱える児童のケースカンファレンスを積極的に行い、年3回以上の児童セーフティネット研修会を開催している 	<ul style="list-style-type: none"> 学期ごとに学校生活アンケートを実施した 養護教諭やカウンセラーも参加しての課題を抱える児童のケースカンファレンスを積極的実施した 不登校や児童の課題、いじめ問題などに関する、児童セーフティネット研修は3回実施した
<p>(3) 児童の育ちを互いに共有</p> <p>1. 児童の育ちを促すために、児童指導の情報共有を図る</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活項目の評価表を作成し、児童の育ちを共有できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 創価の子(通知表)の生活項目について、生活項目の評価表をもとに、指導の目線を揃える 	<ul style="list-style-type: none"> 「創価の子」の評価について成績会議で協議した 指導や評価の目線が揃うように学期ごとに担任と協議した

〔Ⅲ〕 「世界市民」を育成するための教育の充実

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 「ユネスコスクール」チャレンジ校としての取り組みを推進</p> <p>1. 生活科と総合的学習（創価タイム）の充実</p> <p>2. SDGsをもとにした探究型学習の実践</p> <p>3. 本校の豊かな自然環境を生かした取り組みを実施</p> <p>4. スタートカリキュラムの充実</p> <p>5. ユネスコスクール・チャレンジ校としての取り組みを発信し、様々な交流を図っていく</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活科と総合的学習（創価タイム）の充実を図る SDGsをもとにした探究型学習の取り組みを行う 本校の豊かな自然環境を生かした取り組みを実施する なだらかな小学校生活への移行のために、スタートカリキュラムを充実させる 未来プロジェクトが中心になり、ユネスコスクール・チャレンジ校としての取り組みを推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 「ともに生きることを考える世界市民の育成」を目標に、学習のプロセスで探究している SDGsをもとにした探究型学習に取り組んでいる 本校の豊かな自然環境を生かした取り組みを実施している 充実したスタートカリキュラムを実施している ユネスコスクール・チャレンジ校としての取り組みを推進している 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科と総合的学習（創価タイム）の時間を使って、栽培活動やきょうだい活動を充実させることができた SDGsをもとにした探究型学習の取り組みとして、4年生が竹活用プロジェクト「平和竹林から環境の取り組みを始めよう」を実施した 入学前にはスタートプログラムとして、動画を配信。入学後は、スタートカリキュラムとして、学校生活へのなだらかな移行を目指して、生活科の学習を進めた 2023年7月31日、ユネスコスクール・キャンディデート校として承認された（ユネスコスクー

			<p>ル・チャレンジ校としての取り組みは満点評価だった)</p> <ul style="list-style-type: none"> ユネスコスクールの取り組みを、ホームページや学校説明会で発信した保護者講座でも紹介することができた
<p>(2) 国際交流活動の推進</p> <p>1. 体験交流(グローバルキャンプなど)の実施</p> <p>2. アメリカ創価大学の学生との交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流行事を通して、世界市民を育成する国際教育を進める 5年生と創価大学留学生との交流であるグローバルキャンプの実施する アメリカ創価大学の学生との交流を行う 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルキャンプを実施している アメリカ創価大学の学生と交流している 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルキャンプを9月8日に実施した(5年生) ブラジル創価学園とのビデオレター交流を行った(5年生) アメリカ創価大学学生との交流を1学期に実施した(6年生) 12月にイベロアメリカ大学(パラグアイ)総長一行をお迎えして交流の集いを行った
<p>(3) 英語授業の充実</p> <p>1. 全学年のET(イングリッシュタイム)の充実</p> <p>2. 5・6年生における英語授業の充実</p> <p>3. 5・6年生を対象にした「創始者杯英語暗唱大会」を実施</p> <p>4. 1年生から4年生を対象にした「Special English Day」の設定</p> <p>5. 6年生のオンライン留学を実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 朝のET(イングリッシュタイム)を担当のもとで実施するとともに、英語カリキュラムを充実させる 5・6年生の英語授業の充実 5・6年生を対象にした「創始者杯英語暗唱大会」を目標に、児童が意欲的に英語の学習に取り組めるようにする 1年生から4年生を対象にした「Special English Day」の取り組みを通して英語への関心を高める 6年生のオンライン留学を通して、英語への関心を高める 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年で担任の指導の下、朝のET(イングリッシュタイム)で、教材(Switch on)を活用している 英語授業の充実のために工夫をしている 「創始者杯英語暗唱大会」を実施している 「Special English Day」を実施している オンライン留学を実施している 	<ul style="list-style-type: none"> 朝のイングリッシュタイムを定めたカリキュラムのもと教材(Switch on)を活用して実施した 4～6年生は英検ジュニアの練習問題もイングリッシュタイムで実施した 第三回創始者杯英語暗唱大会を実施した(5,6年生) Special English Dayを実施した(1～4年生) 6年生のオンライン留学を2学期に実施した

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1)メディア教育を推進</p> <p>1. ICT機器の活用とプログラミング学習の充実</p> <p>2. 各教科の学習で ICT 機器を積極的に活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ICT 機器を使用し、情報の時間で情報モラルについて学習する • ICT 機器を活用し、プログラミングや、アンプラグドプログラミングの学習を実施する • Google クラスルームを活用する 	<ul style="list-style-type: none"> • 情報モラルについて学習している • 高学年の情報の学習で、プログラミングについての授業を行っている • アンプラグドプログラミングの学習を実施している • Google クラスルームを活用している 	<ul style="list-style-type: none"> • 文部科学省の情報モラル動画を活用し、低学年でも発達段階を意識した指導を行った • 1・2年生は、iPadで学習アプリを使って学習アンプラグドプログラミングや情報モラルについても学習したプログラミングロボット「True True」や「ScratchJr」を使用して、プログラミング的思考を育成した • 3年生からキーボード(タイピング)練習を開始 • 4年生では情報検索、CANVA や Google ドキュメント、スライドを用いてパンフレット作りや発表を実施した • 5年生では scratch3.0でプログラミング学習、Google ドキュメント・スライド、CANVA も活用した • 6年生ではLEGOspikeでプログラミング学習、Google スライドやドキュメントを活用してレポートや卒業文集を作成した • Google クラスルームを全クラスで使用し、写真や動画、学習教材などを配信した • 欠席者への学習内容の連絡などにも活用した
<p>(2)キャリア教育の推進</p> <p>1. キャリアパスポートを活用し、一人一人のキャリア発達を促すための教育を推進</p> <p>2. 卒業生に経験を聞く機会を積極的に設ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> • キャリアパスポートを活用し、キャリア教育を実施していく • 卒業生に経験を聞く機会「ドリーム・プログラム」を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> • キャリアパスポートを活用し、キャリア教育を実施している • 「ドリーム・プログラム」を実施している 	<ul style="list-style-type: none"> • 学園の三行事を中心に、各学年の計画のもと、キャリアパスポートの記録を行った

<p>3. 社会で活躍している人から学べる機会を設ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 社会で活躍している人から学べる機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> • 創価タイムやSDGsの学習で社会で活躍している人との交流を行う 	<ul style="list-style-type: none"> • 卒業生に来ていただいて、4年生が「竹活用プロジェクト」を実施した • 卒業生のパティシエに来ていただいて「ドリーム・プログラム」を実施した • 創価大学教育学部児童教育学科に進学する高校3年生との交流、高校の陸上部との交流、学園ステイでの中学生との交流は、児童にとって近い将来を見つめることができる貴重な経験であった
---------------------------------	---	---	--

<p>(3) 幼小中連携教育の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中学へのスムーズな進学ができるようにするためのブリッジプログラムの充実 2. 札幌創価幼稚園での研修を通して、幼児教育について研鑽する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼小中連携年間計画にしたがって、ブリッジプログラムを行う ・ 中学へのスムーズな移行ができるように小・中の連携を充実させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間計画に沿って、学園ステイ、中学生生活ガイダンス、校長面談を行っている ・ 3学期に連絡シートなどを活用し、幼小連絡会議を行っている ・ 札幌創価幼稚園での研修を通して、幼児教育についての研鑽をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園ステイを6月16・17日に実施した ・ 2月6日の中学生生活ガイダンスを通して、中学進学への目標を明確にすることができた ・ 1学期に校長との給食時の懇談を実施した ・ 11月～12月にかけて校長懇談を実施した ・ 2月21日に幼小連絡会議を行い、児童一人一人の状況を共有し、中学との連携を図った ・ 夏休みに教員3名が、札幌創価幼稚園を訪問し、幼児教育についての研修を受け、その研修内容を全教員で共有した ・ 1月に札幌創価幼稚園の教員2名が本校で研修を行い、幼小連携について協議した ・ 2月、札幌創価幼稚園の年長組と1年生がオンライン交流授業を実施した ・ 3月4日、高校のラーニング・クラスターの生徒との交流会を行った（海外フィールドワークの報告会も兼ねた）
---	--	--	---

〔V〕 規律正しい、安全で健康的な学校生活の確立

今年度の重点目標	具体取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 積極的な児童指導</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活面における評価指標（生活のようす）をもとにした児童への指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達段階を踏まえた「挨拶」「マナー」「ルール」の指導を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学時には、進んで挨拶し、「思いやりノートーク」を行っている ・ 生活面における評価指標を定めている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学時の安全やマナーの徹底のため、毎週の朝会やランチルームでの給食時に指導した ・ 全教員による毎朝の登校指導を実施した

			<ul style="list-style-type: none"> ・年間の指導項目を明確にし、指導を進めた ・2学期は、昼休みから清掃への切り替えに重点を置いて指導した ・チャイムがなったら遊びを止めるように指導した ・無事故のための呼びかけを行った ・3学期は、挨拶を進んで実践できるよう指導した
<p>(2)健康づくりの推進</p> <p>1. 感染症拡大防止のための対策を取り、児童の健康管理に努める</p> <p>2. 健康増進、抵抗力をつけるための食育の充実と積極的な体力づくりの推進</p> <p>3. 保健室の利用状況の共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童部を中心に、感染症拡大防止のための十分な対策を行う ・SDGsの取り組みと連動しながら、食の大切さについて学ぶ ・栄養教諭による食育の授業を行う ・体力向上計画に沿って各種の体育的な行事を実施する ・全校児童の心身の健康状況を把握するために、情報を共有する ・毎年1月に学校保健委員会を開催し、児童の健康状況について報告。学校医と共に課題について検討を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝会で児童に感染症防止についての指導を行っている ・手洗い、うがい、黙食を励行している ・SDGsの取り組みと連動しながら、食の大切さについて学んでいる ・栄養教諭による食育の授業の実施 ・学期ごとに、各種の体力向上の取り組みを行っている ・児童の心身の健康状況を把握するために、情報を共有している 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝会で手洗い・うがい・換気などの感染防止対策や歯科等に関する保健指導を実施した ・保健委員会と共に、校内の石けんの補充に務め、手洗いうがい・換気の呼びかけや、教室換気チェックに取り組んだ ・給食時は黙食を励行し、担当教員や給食委員会が適宜呼びかけを行った ・SDGsの取り組みと連動しながら、栄養教諭による食育の授業を各学年で実施した ・給食メニューについての栄養教諭の話を聞き、食への関心を深めた ・3学期に体育部主導で、なわとびギネスの推進や、中休みに全校持久走に取り組むことを行い、児童の体力向上に努めた ・保健日誌を通して、日々の保健室利用者・児童対応の状況を共有し、学期末に、校内傷病者発生状況報告を行った ・学校保健委員会を開催し、児童の健康状態を学校医と共有し、今後の課題について検討した

<p>(3)安心・安全の指導の強化</p> <p>1. 防火、防犯、防災等の教育の強化</p> <p>2. 日常的な安全指導の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に基づいて、安心・安全のための指導・訓練を実施し、意識を高める ・なかよし会（地域別児童班）の意義を再確認し、地域別指導を行う ・学校生活のルールを遵守するための取り組みを行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回の各種訓練（避難・防災・防犯）や安全教室を行っている ・学期ごとになかよし会での安全指導を行っている ・児童部を中心に、学校生活のルールを遵守するための取り組みを行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画に則り、避難・防災・防犯の避難訓練を実施した ・児童参加による防犯訓練を実施し、不審者対応を確認した ・今年度から新しいなかよし会のグループがスタートした ・夏休み・冬休みを前になかよし会を実施し、長期休み期間中の安全について指導した ・定期的に、保護者ポータルサイトに「安全だより」を掲載した
---	---	--	--

〔VI〕 教員の資質・能力向上のための研修の充実と業務改善

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1)キャリア研修の実施</p> <p>1. 初任者研修や青年研修など、年代別のキャリア研修を実施し、教育力を高める</p> <p>2. 管理職による新任研修の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修会・青年研修会を年間計画に則って行う ・管理職による新任研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回の初任者研修会・青年研修会を行い、教師力を高めている ・管理職による新任研修の実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ・年6回の初任者研修、青年研修を実施し、互いの情報共有も行った ・毎回の研修では、管理職や講師の教員から多くのことを学び、充実の研修になった ・管理職との新任教員懇談会を実施した
<p>(2)教育力向上の研修の充実</p> <p>1. 校外から講師を招き、教育力を高める研修を年間計画に沿って実施</p> <p>2. 教育アドバイザーによる研修の実施</p> <p>3. 各自が研鑽した内容を共有</p> <p>4. 積極的な外部研修への参加（Find! アクティブラーナーの活用）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校外研修へ積極的に参加したり、校外の講師を招いての研修を行ったりする ・教育アドバイザーによる研修を実施する ・教育アドバイザーから積極的にアドバイスを受ける ・各自が研鑽した内容を共有する機会を設ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招いての研修を行っている ・教育アドバイザーによる研修を実施している ・教育アドバイザーから積極的にアドバイスを受けている ・各自が研鑽した内容を共有する機会を設けている 	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良学園大学学長の金山憲正先生をお迎えして、算数の授業研修を実施した ・授業力向上のため、教育アドバイザーに指導していただいた ・研究授業のときに、教育アドバイザーから総括をしていただいた

		<ul style="list-style-type: none"> 外部研修への参加している (Find! アクティブラーナーの活用) 	<ul style="list-style-type: none"> 私小連一日研修などの各種研修会に参加した 個人における Find! アクティブラーナーの研修はあまり活用できなかった
<p>(3) 教務システムを活用し業務改善の推進</p> <p>1. 教務システムを活用しより効率的な業務を遂行</p>	<ul style="list-style-type: none"> 端末機使用による会議等の効率化を図る 課外クラブの活動を見直すなどの業務改善にも取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 教務システムの活用で教務作業の負担を軽減している 業務改善を進めている 	<ul style="list-style-type: none"> 賞状の印刷対応について、学校プリンター対応の用紙に規格変更 来年度からの課外クラブのあり方を検討し、実施曜日、実施時間などを改善することになった

〔VII〕 児童募集・家庭との連携の充実

今年度の重点目標	具体的取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
<p>(1) 募集行事・広報活動の充実</p> <p>1. 広報ツールの充実 (学校案内の活用)</p> <p>2. オープンスクールや学校説明会などの内容を工夫し、満足度の高い募集行事を行う</p> <p>3. 入試サポート miraicompass を活用し、学校の情報提供を行う</p> <p>4. 「関西創価小学校 きっずくらぶ」を充実させ、未就学者の登録を促し児童募集につなげる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 広報ツールの充実と、魅力的なオープンキャンパスなどの児童募集行事を行う 児童募集並びに入試サポートのために miraicompass を活する 「関西創価小学校 きっずくらぶ」を通して本校の教育内容を紹介し、未就学児の「関西創価小学校 きっずくらぶ」への登録を促す 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページや SNS などを効果的に活用し、オープンスクールや学校説明会、募集行事の広報を行っている 魅力的なオープンキャンパスなどの児童募集行事を行っている miraicompass を活用し学校の情報を提供している 「関西創価小学校 きっずくらぶ」を活用し、児童募集につなげている 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校のホームページ、学園 LINE 等でイベント案内するシステムに切り替えた 小学校の SNS を開設 Instagram を 36 回、note を 9 回配信 募集行事における参加者の満足度は高かった miraicompass で登録者とのつながりを深める工夫を行った 12 月に年中児にハガキを送付、2 月に年少児以下にハガキ送付し、喜んでいただいた 「きっずくらぶ」を発展解消し、小学校 LINE での配信に切り替えた

<p>(2)家庭への情報発信</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. メール(配配メール)を使用した家庭連携の迅速化 2. 保護者 GoogleClassroom を活用し、学年・学級の情報を提供 3. 保護者ポータルサイトを活用し情報を提供 4. 遅刻・欠席連絡フォームの活用 5. 保護者会での情報提供 6. 学年だよりの充実 8. 保護者に教育コラム等を配信し、本校の目指すべき教育について伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にメール(配配メール)を使用して、保護者に行事予定や学校情報を発信する ・保護者ポータルサイトに、保護者に有効な情報を提供する ・保護者 Google Classroom を活用する ・欠席・遅刻連絡フォームを整備し、保護者に通知、活用してもらう ・保護者会で、必要な情報を提供していく ・学年だよりの充実を図っていく ・保護者に教育コラム等を配信し、本校の目指すべき教育について伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にメール(配配メール)で行事予定や学校情報を発信している ・保護者ポータルサイトに学校からの情報を提供している ・保護者 Google Classroom を活用している ・欠席・遅刻連絡フォームを保護者ポータルサイト上に整備、保護者が活用している ・保護者会で、必要な情報を提供している ・学年だよりの充実を図っている ・保護者に教育コラム等を配信している 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にメールで情報を配信、動画は 38 本配信した ・保護者ポータルサイトに学校からの情報を提供し、メールでお知らせした ・「関西創価小だよりの」、「給食の献立」、「ほけんだより」、その他のお知らせも保護者ポータルサイトに掲載し、掲載をメールでもお知らせした ・欠席・遅刻連絡フォームを保護者が活用している ・「お問い合わせフォーム」を開設し、保護者がいつでも問い合わせができるようにした ・学年だよりを Google Classroom で配信し、タイムリーな記事を保護者に提供することができた ・保護者に来校していただいて保護者講座や保護者会を開催した ・4年生の保護者を対象にした講座や給食体験を初めて実施することができた ・ホームページの充実を図った ・保護者に教育コラムを毎月配信した
--	---	---	--

7. 自己評価の結果と分析・学校関係者評価委員会から

自己評価の結果と分析	学校評価委員会から
<p>〔I〕 「確かな学力」の定着と伸長を図るための教育内容の充実</p> <p>確かな学力を定着させるために授業力向上 WEEK を設けたり、教育アドバイザーに授業を見ていただいたりするなど、積極的に授業改善に努めた。「授業力の向上」についての重点目標が「十分達成できた」「少しは進んだ」と回答した教員は80%（自己評価の数値2.9）であった。昨年度より評価は上がっていた。</p> <p>学習者による授業者の評価については、肯定的な回答が全項目で85%以上。特に、「授業は分かりやすい」「工夫して授業してくれている」「先生の指示や質問はわかりやすい」「授業で新しく分かったことやできるようになったことがある」の項目では、93%を超えた。教員の学習指導力を向上させながら、「確かな学力の向上」への手ごたえをつかんでいきたい。</p> <p>そのための家庭学習や読書習慣の定着は欠かせない。家庭学習の目標時間に対する達成者は51.3%で、まだ定着していない現状がある。家庭で過ごす時間をメディア視聴の時間に費やしてしまっている児童もいるため、家庭と連携をとり、学習時間の確保や読書習慣の定着に努めていきたい。YouTube の見過ぎなど、児童に与える悪影響については保護者にも伝え、協力を求めていきたい。</p> <p>来年度はドリルパークを導入するため、個別最適化の学習が家庭でできるようになる。更に、来年度からはベネッセの総合学力調査を導入するため、その結果をドリルパークと連動させて弱点の補強に生かすことができる。授業と家庭学習の連動も研究部を中心に取り組んでいきたい。</p> <p>良書に親しむことも学力向上の基礎作りになる。図書委員会を中心にチャレンジ図書読書の取り組みを行ったり、6年生が中心になって部門を立ち上げて、全校児童に呼びかけたりしてくれたので、児童の読書意欲を高めるきっかけにはなった。本年度のノーベル図書館の年間貸し出し数は26859冊、一人当たりの貸し出し数は、平均47冊だった。更に多くの本を読めるように促していきたいと思う。教員による読み聞かせ、保護者による読み聞かせを積極的に行い、良書に親しむ経験を重ねる中で、児童の心を育てていきたい。</p> <p>学力保障のための放課後の補習（スペシャルスタディ）は、6年生に、中学を先取りした学習をしたところ、復習中心の時より意欲的に取り組んでいる傾向が見られた。児童の意欲を高める学習方法を今後も提示していきたい。もっと勉強したいと思っている児童にどうアプローチするか、検討が必要である。</p> <p>漢字検定の合格者が97.8%であった結果から、教員の個別指導の効果が十分表れていることが分かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットドリルは、とても役に立っていくという期待感がある。家庭でのタブレットの使用については、少し心配している面もある。 ・授業公開の様子から、楽しく授業をしようという教師の気持ちが伝わってきた。親も一緒に読書する時間を工夫したいと考えている。先取りは子どもの向上心を刺激する。ドリルパークの導入はとても良いと思う。 ・家庭学習の取り組みでおおむね達成できたという学年について、その要因は何かを共有し、今後も取り組んでいかれたら良いと思う。
<p>〔II〕 「豊かな人間性」を育むための教育の推進</p> <p>「豊かな人間性」を育むための道徳教育には、部会を中心に取り組むことができた。道徳の時間は、自分の気持ちを話せる場となっていた。特に低学年は、ロールプレイを通して自分ごととして考えさせることが大事になる。ロールプレイを取り入れた授業実践からそのことが実感できた。今後も、道徳の学習で「優しさ」や「思いやり」を学び、また、それらの心情を育む場、日常を振り返る場、違いを知る場にして、いじめの解消にもつなげていきたい。「道徳教育の充実」についての重点目標が「十分達成できた」「少しは進んだ」と回答した教員は60%（自己評価の数値2.7）であったことから、道徳教育の取り組みの結果が児童の言動に表れていないことを教員が感じていることが伺えた。児童の変容がみられることが、道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルメディアの発達で、学校外でのつながりの見えない場所が様々に広がっている。そうしたところで、傷つく子どもたちもいるので把握に努めることが大事だと感じている。 ・道徳については中学校でも様々な課題がある。探究学習の中でいろいろな角度から物事を見ることができるよう

<p>教育の成果であるので、児童の言動が変わるよう、道徳教育に力を入れていきたい。</p> <p>課題のある児童のケースカンファレンスは適時開催した。ケースカンファレンスを通して、児童が相互に認め合える関係や心を育てることの必要性を感じた。児童が安心して学校生活を送れるよう、教員が児童や保護者の気になる兆候をキャッチできるような研修を重ね、組織として対応していきたい。いじめ問題については、家庭との信頼関係の構築が前提となる、迅速な対応とともに、児童の心のケアやサポートを行い、継続して観察していくことを皆で確認し合った。</p> <p>いじめの早期発見のために、「学校生活アンケート」を年3回実施した。心配な状況があれば、担任は、丁寧に児童に聞き取りを行った。一人一人に応じたきめ細かな対応が必要なため、養護教諭やカウンセラーも児童や保護者の対応に関わった。</p> <p>「児童の育ちを互いに共有」との重点項目が、「十分達成できた」「少しは進んだ」と回答した教員は82.8%（自己評価の数値3.1）だった。「創価の子」における生活項目は、児童の育ちを確認する大事な評価であるため、学期ごとに担任と確認してきた。児童の成長につなげる評価の在り方については、継続して検討していく必要がある。</p>	<p>と考えている。自分事で考える習慣を身に付けさせたい。</p>
<p>〔Ⅲ〕 「世界市民」を育成するための教育の充実</p> <p>「世界市民」を育成するための教育の充実についての重点目標は、どの項目においても、「十分達成できた」「少しは進んだ」と回答した教員は85%（自己評価の数値3.0）を超えていた。卒業生を迎えて取り組んだ4年生の竹活用プロジェクトなど、各学年の生活科や創価タイムでの取り組みが明確になっていたため、教員にも達成感があったのだと思う。学習成果の発表が、学校の集いに連動していたり、学年での発表の場があったりしたことが、児童の取り組みを意欲的にした要因だと思う。児童も伸び伸びと取り組んでおり、1年間の育ちが実感できた。各教科でも「世界市民」を育成するためのさまざまな取り組みを行った。図工科では、平和学習の一環として「枚方平和ポスター作品展」に出品した。</p> <p>国際交流活動では、例年通り、創価大学の留学生との交流である「グローバルキャンプ」やブラジル創価学園との「ビデオレター」の交流、アメリカ創価大学学生との交流を行った。12月にはイベロアメリカ大学総長一行をお迎えして歓迎の集いを行った。これらの交流も毎年グレードアップし、取り組みの前進につなげていきたい。</p> <p>英語科では、Speakingの活動を充実させることに努めた。体験的な学習を授業に取り入れた。Special English Dayの活動内容の充実、英検ジュニアの成果、創立者杯英語暗唱大会のレベルの高さが教員の達成感につながった。英語が得意な児童を伸ばしていくための手立てが今後の課題である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界市民」の育成というのは、スケールが大きい取り組み。我が家の娘もSDGsの発表の準備に勇んで取り組んでいた。イベロアメリカ大学の総長一行との交流も世界を身近に感じるありがたい機会であった。 ・英語は、レベルが高すぎて苦手意識がついているようにも感じる。特に発音の問題は家庭ではクリアすることが難しい。 ・今年は積極的に英語に取り組んでいる様子があった。発表の機会もよかった。インプット+アウトプットの時間が大切だと感じた。 ・中学校でも英語のレベルアップは感じている。苦手意識をクリアする取り組みを考えたい。 ・世界市民を育成するための取り組みが素晴らしい。小さい子であるほどたくさん吸収するように感じている。
<p>〔Ⅳ〕 時代に即した教育の推進</p> <p>「メディア教育を推進」についての重点目標が、「十分達成できた」「少しは進んだ」と回答した教員は94.3%（自己評価の数値3.1）だった。</p> <p>1・2年生は、iPadで学習アプリを使って学習。アンプラグドプログラミングや情報モラルについても学習した。プログラミングロボット「True True」や「Scratch Jr」を使用して、プログラミング的思考を育成した。3年生からキーボ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育では、より本物に触れる機会を作っていきたい。卒業生組織として応援できることがあれば考えていきたい。

<p>ード(タイピング)練習を開始。ドキュメントでの原稿作成。4年生ではタイピング、情報検索、CANVAやGoogleドキュメント、スライドを用いてのパンフレット作りや発表を実施。5年生ではscratch3.0でプログラミング学習、Google s y ライドやドキュメント、CANVAも活用。6年生ではLEGO spikeでプログラミング学習、Googleスライドやドキュメントを活用してレポートや卒業文集を作成した。</p> <p>校内全体で見ると、教科学習の中でiPadやChromebookを使う頻度が増えてはいるが、クラスや学年での使用の格差があるため、活用に差も生まれている。児童が、明日もiPad・Chromebookを使いたくなるような、具体的な授業展開を示していきたい。</p> <p>来年度は、iPad・Chromebookは持ち帰りも可能になる。児童が学習教材を活用することを期待したい。</p> <p>キャリア教育の推進については、卒業生を迎えてのドリーム・プログラム等を実施してきたが、目標を達成できた実感できている教員は半数ぐらいであった。キャリア教育のあり方について、教員間で協議をし、今後の方向性を検討していきたい。</p> <p>幼小中の連携については、札幌創価幼稚園での研修や関西創価中学校の授業参観など、昨年以上の交流の機会を持つことができた。一部の教員だけでなく全教員が参加できる体制を目指していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・iPadは重量があるので、小さな児童への負担が心配。特に1年生への配慮が必要だと感じる。児童が使用する機器は比較的軽い物を選んでいただきたい。
<p>〔V〕 規律正しい、安全で健康的な学校生活の確立</p> <p>児童部・体育部が中心になり、規律正しい、安全で健康的な学校生活の確立を目指して、委員会や高学年が主体になっての取り組みを推進した。安全面も健康面も子どもたち自身が大切さを感じて取り組めるように指導を重ねてきたが、登下校時の苦情の連絡は入っているので、児童の育ちにはまだ課題がある。「積極的な児童指導」についての重点目標が、「十分達成できた」「少しは進んだ」と回答した教員は57.2%（自己評価の数値2.7）だった。通学路、車内や駅のホームでの行動については、引き続き指導が必要である。自ら進んで実行できる児童を育てていくことを目標にしていきたい。</p> <p>「健康づくりの推進」についての重点目標が、「十分達成できた」「少しは進んだ」と回答した教員は71.4%（自己評価の数値2.8）だった。</p> <p>5月の「外遊び元気カード」の推進、9月の梯団別外遊び対決、12月からの「なわとびカード」を使っでの取り組み、2月の持久走など、外に出て遊ぶ企画は多く実施できたが、取り組みにおける効果の検証はしっかり行う必要がある。8月の水泳、10月の陸上教室、1月の駅伝など、高学年は期間限定で体力増進に励む企画が多いが、低学年には設けられていない。この点は今後の課題である。</p> <p>年間計画に則り、避難・防災・防犯の訓練を実施した。「安心・安全の指導の強化」についての重点目標が、「十分達成できた」「少しは進んだ」と回答した教員は77.1%（自己評価の数値2.9）だった。児童がいざという時に行動できる訓練のあり方を検討し、緊急時に備えていきたい。</p> <p>これらの目標達成には、家庭の協力も欠かせない面がある。家庭との連携を意識して取り組みたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・規律を守らせるために、児童間で声をかけ合えるとよいのではないかと感じる ・大阪駅伝で1位になったことは素晴らしい。関西創価高校の先輩も関わってくれたと伺った。一貫教育を活かした良い取り組みだと思う。
<p>〔VI〕 教員の資質・能力向上のための研修の充実と業務改善</p> <p>初任者研修・青年研修において、教職歴の長い教員や管理職による研修を実施した。研修内容は充実しており、参加した教員にとって有意義な研修だったが、初任者研修や青年研修に参加する教員以外を対象にした研修の機会がないため、全教員として、キャリア研修が充実しているという実感までには至っていない。そのため、「キャリア研修の実施」の重点目標が、「十分達成できた」「少しは進んだ」と回答した教員は51.4%（自己評価の数値2.7）だった。今年度は、札幌創価幼稚園での教員研修を夏に実施。幼児期の育ちの姿をこの研修で学ぶことができ、小学校教員としても深い学びになった。中学校の授業参観もさせていただいたりしたが、連携教育の観点からも幼小や小中の先生方が参観し合う機会を更に数多く設けたり、小中高の合同研修会を開催したりするなど、キャリア研修につながる取り組みが更に必要だと感じている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修は中学校でも十分なものとするために苦慮している。小中高の連携を深めていきたい。 ・課外クラブの取り組みも来年度からゆとりが持てるように変更されたので、児童も教員もゆとりをもって充実した学びの時間を作っていただきたい。

<p>今年度は、創立精神を学ぶ研修を3回行ったが、この研修の内容は大変充実していた。創立精神の継承は最重要である。</p> <p>「教務システムを活用して、業務改善を推進」についての重点目標が、「十分達成できた」「少しは進んだ」と回答した教員は77.1%（自己評価の数値2.9）だった。教育力向上の研修については、奈良学園大学学長の金山先生をお迎えして算数の研修会を開催したり、教育アドバイザーの金澤先生に授業を参観していただき、指導・助言を受けたりして、教員としての資質・能力向上を目指してきた。また、Webで研修に参加できるように、「Find! アクティブラーナー」を導入した。しかし、この「Find! アクティブラーナー」はあまり活用できていなかった。研修日を設けるなど時間を生み出す工夫が必要かもしれない。来年度は、課外クラブの活動時間を減らす措置を取るため、教員の研修時間の確保にも努めていきたい。</p>	
<p>〔VII〕 児童募集・家庭との連携の充実</p> <p>「募集行事・広報活動の充実」についての重点目標が、「十分達成できた」「少しは進んだ」と回答した教員は79.4%（自己評価の数値3.0）だった。昨年度以上に、ホームページ、SNS等で学校案内、募集行事の広報を行った。小学校のLINEを開設し、月4回程度、受験対象者や未就学児のいるご家庭に配信した。イベントでのノベルティがあるようにもした。今年度からnote(9件)、Instagram(36件)での配信も行い、また、ハガキを送るなど、一人一人につながっていくことにも取り組んだ。児童役員の着任も再開。在校生との触れ合いが、本校受験の決め手になっていた。</p> <p>来年度からは、入学選考の日程を変更し、それに伴って募集行事の日程も変更する。受験生や保護者の緊張感を取り除けるように、面接から面談に変更となるため、入学選考の改革を大きく進め、児童の募集を推進していきたい。</p> <p>「家庭への情報発信」についての重点目標が、「十分達成できた」「少しは進んだ」と回答した教員は77.1%（自己評価の数値2.9）だった。学校からのお知らせは、メールで随時配信した。また、学年だよりをGoogle Classroomで配信し、タイムリーな記事を保護者に提供した。4年生の保護者を対象に初めて実施した講座や給食体験、2月の保護者講座で、本校の教育活動の様子や取り組みの状況をお伝えできたことは、保護者の方々に本校の教育活動を理解していただく大事な機会となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では大変よくしてもらっていると感謝しかない。メディアの推進については、視力への悪影響は考慮してほしいと思う。 ・iPad・Chromebookは、持ち帰って家で依存にならない工夫をしてほしい。 ・学校のパンフレットを持って周囲にしっかり広報していきたい。 ・2024年に入学する方のエピソードを紹介したい。自分の親に気を使って受験できないと考えていたが、見学させてもらう機会があったときに、楽器をきちっと使いこなす児童を見て受験を決意できた、とのことであった。児童の実際の姿を見てもらえると更に受験の推進ができると感じた。父親が面接に参加できなかったときに、手紙で入学意思を表明できた。学校の柔軟な対応が良い結果に結びついた、と言われていた。関西小の児童が地域に触れることで受験推進が進むように感じる。創価養育を身近に感じるようにしていきたい。素晴らしい取り組みを更に語っていきたい。 ・卒業生として誇りに思う取り組みが進んでいると感じる。創立者が精神を込めてくださったことを多くの人に伝えていきたい。 ・関西小で育んだ児童を生徒として受け入れる側であるので、関西小の取り組みを引き継いでいきたい。

--	--

8. 総括と改善

自己評価と学校関係者評価を踏まえ、今後の重点的な目標・改善方策および学校運営のあり方について以下にまとめた。

(1) 今後、重点的に取り組む目標

- ① ICT機器を活用しての学習活動を積極的に進めていく。メディアリテラシーの教育を重視し、連続的、継続的に取り組めるように系統立てていく。関西創価小学校ならではのスタンダードを構築し、ICT機器の活かし方や使い方を児童に指導していく。
- ② 「世界市民」とは、自分を大切にできる人、周りの人を大切にできる人、親孝行できる人であるとも言える。このことを踏まえて、児童の心を養い、行動に移せるよう育てていく。
- ③ 英語教育を更に充実させ、ネイティブとの触れ合いや、海外の方々との触れ合いの機会を大事にしていく。各教科においても、教材で世界とのつながりを教えるなど、世界を感じる授業の要素を取り入れていく。児童が世界を認識している、日本の文化や伝統を認識しているようにしていく。
- ④ 人や自然との関わりや、地球とともに生きているということを実感できるように学びを進めていく。
- ⑤ 児童に主体的に取り組む力を身につけさせる。そのために、児童が主体となって活躍できる場、学級活動や、児童朝会などを積極的に活用していく。各教科においても、児童が主体的に取り組めるように授業を展開していく。道徳の学習も、児童が自分事としてとらえ、自らの課題を解決できるように進めていく。
- ⑥ 個別最適化の学びのあり方を検討していく。向上心の高い児童に、どう満足感を与えていくか、また、伸び悩んでいる児童をどう引き上げていくか、このことについても討議を重ね、家庭学習や学習方法のあり方を模索して、全ての児童が満足できる授業を目指していく。
- ⑦ それぞれの取り組みが充実しているか、児童が成長しているかと、常に確認していく。児童が、「世界の人を幸せにする力をつける」という目標に向かって頑張れるように、創立者の思想を学びながら、振り返りを大事にして進めていく。
- ⑧ 教師力を高め、児童間のトラブルを見逃さず、「いじめ見逃しゼロ」を目指して取り組んでいく。

(2) 今後の改善方策

確かな学力の定着のために、目標をルーブリック化するなどして、明確にししながら、達成感のある授業を実践していく。そのために、研究部が主体となり、授業研究を進めていく。また、各教科の部会を充実させ、授業力の向上を目指していく。児童に目標達成に向けての道筋を示しながら、その実践方法を提示していく

児童の行動を価値づけていくことに取り組んでいく。自分が頑張ったことを評価してもらえる。この実感が、児童の目標達成へのモチベーションになる。多くの教師が、様々な角度から児童を認め、児童に認めてもらえることへの満足感を与えていきたい。教師から児童に対する称賛の声が溢れる「明日も行きたくなる学校」にしていきたい。

「世界の人を幸せにする力をつける」との目標のもと、児童が、人に喜びを与え、人を励ませる行動ができるよう、道徳教育や創立者の思想の学習を進めていきたい。

(3) 今後の学校運営のあり方

教師が保護者との信頼関係を深め、児童との信頼関係を築いていけるよう努めていく。保護者との連携、また、児童への対応については、対応のあり方を明確にして提示していく。また、児童同士がお互いの信頼関係を深めていけるよう導いていく。家庭訪問も重視していきたい。

教師が児童と触れ合える時間を確保することに努めていく。教師に話を聞いてもらいたいと思っている児童は多いため、全ての教師が積極的に関わられる環境を作っていきたい。

創立精神や教育方針を根幹に、教師間で、十分な協議が重ねられるよう配慮し、魅力ある学校作りを目指し、更なる教育力の向上を図っていく。ユネスコスクール・キャンディデート校としての本校の取り組みを、より一層推進していきたい。

以上